



CNP認証（コンテナターミナル）認証書交付式を開催！

～中部地方整備局管内第2弾となる認証～

国土交通省では、「2050年カーボンニュートラル」等の政府目標の下、脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化や水素・アンモニア等の受入環境の整備等を図るカーボンニュートラルポート（CNP）の形成を推進しております。

コンテナターミナルにおける脱炭素化の取組の透明化を図り客観的に評価する「CNP認証（コンテナターミナル）」^{※1}が創設（令和7年3月）され、令和7年6月30日より申請受付を開始しております。

今般、中部管内において「三河港豊橋コンテナターミナル」「四日市港コンテナターミナル」が中部地方整備局管内において第2弾となるCNP認証制度の認証^{※2※3}を受けましたので、3月16日に認証書の交付式を開催します。

※1：詳細は参考資料1をご参照ください。

※2：認証結果については国土交通省港湾局HPで公表されています。

（国土交通省港湾局HP（https://www.mlit.go.jp/report/press/kowan_news.html）を参照ください）

※3：認証の詳細は参考資料2をご参照ください。

1. 概要

日時：令和8年3月16日(月)

・三河港：11時00分～（30分程度）

・四日市港：13時00分～（30分程度）

会場：国土交通省中部地方整備局港湾空港部 1階 第一会議室
（名古屋市中区丸の内二丁目1番36号）

主催：国土交通省 中部地方整備局 港湾空港部

その他：交付式後、意見交換会を開催予定

2. 取材

- ・交付式のみ公開いたします。
- ・取材いただける報道機関の方は、別紙1「取材登録」をご参照いただき、3月12日(木)15時までに電子メールにてお申し込みください。
- ・当日は、各交付式開催15分前（三河港：10時45分、四日市港：12時45分）までに会場受付（第一会議室出入り口前）にお越しください。
- ・カメラ等による撮影は可能です。なお、取材の際は、報道機関名が確認できる取材者証（腕章）等の着用をお願いいたします。

3. 配布先 中部地方整備局記者クラブ、中部専門記者会、愛知県政記者クラブ、
港湾新聞、海事プレス、港湾空港タイムス、日本海事新聞、
三重県政及び第二県政記者クラブ、四日市市政記者クラブ、マリタイムデ
ーリーニュース
4. 問合せ先 国土交通省 中部地方整備局 港湾空港部
港湾計画課 松永（まつなが）、藤田（ふじた）
TEL: 052-209-6323 E-mail : pa.cbr-keikaku@mlit.go.jp

メール送信先: pa.cbr-keikaku@mlit.go.jp
(国土交通省 中部地方整備局 港湾空港部 港湾計画課 宛)

取材登録

※取材をご希望の場合は、事前に以下の記載事項を電子メールにて送付いただくようお願いいたします

【メール件名】

(取材登録)CNP認証(コンテナターミナル)認証書交付式

【記載事項】

1. 報道機関名

2. 取材者(複数名の場合は代表者)
 - ①ご氏名
 - ②ご役職
 - ③取材人数

3. 連絡先
 - ①電話番号
 - ②当日に連絡可能な携帯電話番号(3. ①と同じ場合は不要)

4. 注意事項
 - 災害等発生時には、止むを得ず中止・延期する場合がございます。
 - 中止・延期が決定した場合、当日9:30までに連絡いたします。

(メール本文に直接入力し、送付いただく形で問題ございません。)

申込締切: 令和8年3月12日(木) 15時

- 2025年6月、コンテナターミナルにおける脱炭素化の取組を客観的に評価する「CNP認証(コンテナターミナル)」の運用を開始
- ポートセールスでの活用とともに、CNP形成に向けたターミナル間での競争と、カーボンニュートラルの観点で荷主や船社等によるターミナルの選択が可能となることを期待

制度の概要

※申請は無料です

- 対象
 - ・日本国内のコンテナターミナル
- 申請者
 - ・港湾管理者が運営するターミナル
→ 港湾管理者
 - ・民間事業者が運営するターミナル
→ 借受者又はターミナルオペレーター
- 認証者
 - ・国土交通省港湾局
- 評価方法・基準
 - ・「要求事項」の達成状況を5段階で評価
 - ・「推奨事項」の達成状況を「+」の数で評価
- 認証有効期間
 - ・3年



CNP認証において評価する取り組み



LNG・アンモニア等
バンカリング船

CT管理棟、上屋への
太陽光発電設置

インバーター方式の
ガントリークレーンの導入

RTG・トップリフター
構内トラクター等の
脱炭素化

大型商用
EV・FCV等の導入
インセンティブ

CNP認証の評価基準

- 評価の対象は、①貨物取扱に関する取組、②船舶・車両の脱炭素化、③その他の取組
- レベル1～5の5段階で認証、各レベルで設定している「要求事項」を全てを満たすことが必要
- 「推奨事項」を満たしている場合、その項目数に応じて「+」を付加

CNP認証(コンテナターミナル)評価基準

大分類	主な取り組み	要求事項(レベル1～5)					推奨事項(+)
		1	2	3	4	5	
貨物取扱に関する取組	脱炭素化に向けた計画を作成	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> • 構内トラクター電動化など • リーファー施設、管理棟の省電力化など
	脱炭素化対応荷役機械の導入	-	10%	50%	80%	100%	
	LED照明などの導入	-	10%	50%	80%	100%	
船舶・車両の脱炭素化	環境に配慮した船舶への入港インセンティブ付与	-	-	-	○	○	<ul style="list-style-type: none"> • 船舶への陸上電力の供給 • 次世代船舶燃料の供給 • 大型商用EV・FCV等に対するインセンティブ
	ゲート予約システムの導入	-	-	-	○	○	
その他	上記以外の低・脱炭素化の取組	-	-	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> • 低・脱炭素化された電力・燃料の利用 • 環境配慮タグボートの導入

○ 2025年度は10ターミナル(9月:5箇所、11月:2箇所、3月:3箇所)を認証

認証済みのターミナル

認証時期	港湾・ターミナル名	認証レベル
2025年 9月	博多港アイランドシティ コンテナターミナル	レベル5+ ★★★★★
2025年 9月	川崎港コンテナターミナル	レベル4+ ★★★★☆
2025年 9月	名古屋港鍋田ふ頭 コンテナターミナル	レベル3++ ★★★☆☆
2025年 9月	大阪港南港コンテナターミナル C-1/4	レベル2+ ★★☆☆☆
2025年 9月	高松港コンテナターミナル	レベル1 ★☆☆☆☆
2025年11月	大阪港夢洲コンテナターミナル C10, C11, C12	レベル2++ ★★☆☆☆
2025年11月	八戸港 多目的国際物流ターミナル	レベル1 ★☆☆☆☆

今回認証するターミナル

認証時期	港湾・ターミナル名	認証レベル
2026年3月	堺泉北港 助松コンテナターミナル	レベル1+ ★☆☆☆☆
2026年3月	三河港豊橋コンテナターミナル	レベル1+ ★☆☆☆☆
2026年3月	四日市港コンテナターミナル	レベル1+ ★☆☆☆☆

※制度概要や認証ターミナルの情報については、
CNP認証ポータルサイト(下記QRコード)でも周知



CNP認証ポータルサイト

CNP認証の効果、制度に対する意見等

○これまでに認証を取得したターミナルに対し、アンケートを実施

■Q：今回、CNP認証を申請された理由、キッカケについてご教示ください。

✓ 客観的評価による信頼性向上と脱炭素化の取組を見える化

「これまでの脱炭素・省エネの取組を国の制度で正式に評価してもらえることに魅力を感じた」

「これまで評価される場がなかった取組を見える化できる点に意義を感じた」

「これまで行ってきたカーボンニュートラルの取組について客観的に評価してほしかったため」

✓ 港湾の認知度・利用価値の向上

「港湾の認知度や利用価値が高まり、荷主や船会社にとって信頼性のある選択基準になると考えた」

✓ PR効果と競争力強化

「CNPの取組を広くPRできる機会として活用したい」

■Q：CNP認証後の具体的な効果（今後期待される効果等含む）についてご教示ください。

✓ 認知度・話題性の向上

「認証取得後の問い合わせや具体的な利用促進効果はまだ限定的」

「関係者間で話題となり、複数のメディアで報道されるなど、CNP認証の認知度が高まった。」

「脱炭素取組の可視化これまでの取組を対外的に示す機会となり、社外への認知向上に寄与。」

「国や自治体から、認証されると企業イメージがあがり、新規採用時のPR等にも使える。」

✓ 今後の活用意向

「ターミナル説明や営業活動で認証を活用し、荷主・船社への利用促進を図る予定。」

CNP認証の国際展開に向けた取り組み

- 現在、CNP認証の国際展開に向けた取り組みとして、同制度の国際版を策定し、ICHCA(国際荷役調整協会)ガイドラインとしての発行に向けた調整を行っている
- CNP認証の国際的認知度向上及びCNP認証を取得したターミナルの社会的な信用度やブランド力の向上を期待




GUIDELINES FOR THE CERTIFICATION SYSTEM
FOR DECARBONIZATION EFFORTS
AT PORT TERMINALS

ICHCA International Guideline #@@

国際荷役調整協会 (ICHCA) の概要

- ICHCA(International Cargo Handling Co-ordination Association)は、貨物の荷役と運送の効率化、経済性の向上、安全・衛生・環境調和の向上に貢献することを目的として、情報共有や、各種ガイドラインの作成を実施している国際組織
- ICHCAのガイドラインに法的拘束力はないが、世界各国で参照
- 会員には世界(約100か国)から港湾運営会社、ターミナルオペレーター、物流事業者、船社、保険会社、調査会社、政府機関、メーカー等が参画しており、国連専門機関への正式な諮問機関となっている

ICHCA版CNP認証ガイドラインの概要

- ガイドラインの位置づけ
 - ✓ 日本のCNP認証制度を、ICHCA版のガイドラインとして再編集
 - ✓ ガイドラインは、ICHCAと国土交通省の連名で発行
- 期待される効果
 - ✓ CNP認証制度の国際的認知度が向上し、ターミナルの脱炭素化の取組に係る日本のプレゼンスの向上に寄与する
 - ✓ 認証取得ターミナルの社会的な信用度やブランド力の向上が図られ、ターミナルの利用促進や競争力強化にも資する



三河港豊橋コンテナターミナル



CNP Certification

認証レベル

Level 1+

(認証日 令和8年3月10日)

CO₂排出量原単位
11.95 kgs CO₂ / TEU

脱炭素化の取組主体

主な取組内容

愛知県

三河港港湾脱炭素化推進計画の作成

インバータ制御方式のガントリークレーンの導入

ヤード照明のLED化

環境に配慮した船舶への入港インセンティブの導入

[ターミナル概要]

三河港豊橋コンテナターミナルは平成10年に神野西ふ頭7号岸壁で供用が開始され、現在は2基のガントリークレーンが稼働しています。日本の中心に位置するという地理的優位性を活かし、韓国との外貿定期航路や中京～京浜フィーダー航路を通じて、世界各国の港湾と結ばれています。

令和6年に三河港港湾脱炭素化推進計画を作成し、インバータ制御方式のガントリークレーンの導入やヤード照明のLED化などの取組を進めています。



三河港港湾脱炭素化推進協議会

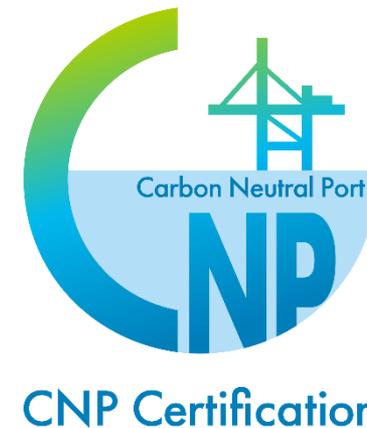


インバータ制御方式のガントリークレーンの導入



ヤード照明のLED化

四日市港コンテナターミナル



認証レベル
Level 1+

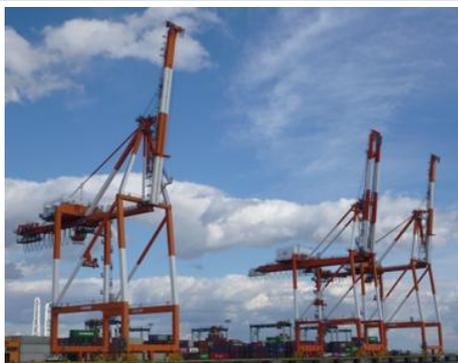
(認証日 令和8年3月10日)

CO₂排出量原単位
11.35 kgs CO₂ / TEU

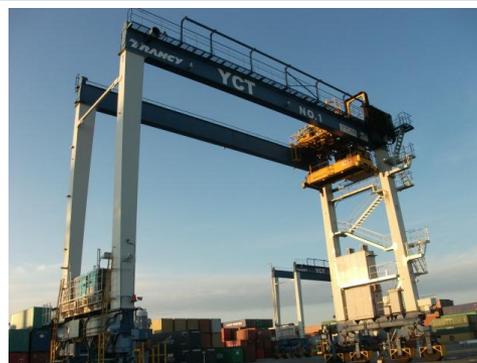
脱炭素化の取組主体	主な取組内容
名古屋四日市国際港湾株式会社 四日市コンテナターミナル株式会社	ハイブリッド型RTGの導入
	ハイブリッド型ストラドルキャリアの導入
四日市港管理組合	四日市港港湾脱炭素化推進計画の作成
	インバータ制御方式のガントリークレーンの導入
	環境に配慮した船舶への入港インセンティブの導入

[ターミナル概要]

四日市港のコンテナターミナルは霞ヶ浦地区に位置し、北埠頭W80コンテナターミナルと南埠頭W26・W27コンテナターミナルで構成され、地域のものづくり産業を物流面で支えています。脱炭素化については、インバータ方式のガントリークレーン、ハイブリッド型の荷役機械等の導入を行い、官民一体で取り組んでいます。また新たにW81の整備を進めており、ふ頭の混雑解消、コンテナ機能集約による高度化、効率化、災害に強いターミナルを目指しています。



インバータ制御方式のガントリークレーン



ハイブリッド型RTG



四日市港港湾脱炭素化推進協議会